

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者様の個々のニーズを把握し個別ケアには反映させているが、統一的なニーズ把握ができていない。また全体ニーズから見えてくる重点テーマの設定が不足している。	全体のニーズの把握。それに見合ったケアの実践。	1、利用者様全員からニーズの抽出。2、ニーズをジャンルに分けて分析、検討。3、ニーズ解決に向けた取り組みやケアの内容検討4、実践5、実践後の反応のりサーチ。	継続
2	40	食事作りにおいて各職員の調理技術、スキルによって味の良し悪しが出てしまう。また、利用者様のADLに適した食材加工が難しい。	スタッフ全員が均一の調理技術、味付けを身につけるようにする。季節の料理(郷土食等)を把握し調理方法を理解する。	職員料理教室の実施。[熟練者が指導し調理方法や味付けのアドバイス]定期的な嗜好調査の実施。嚥下障害や咀嚼機能の低下から起こる摂食障害の理解と対応を学習する。	継続
3	52	共有スペースの環境整備が不完全で、来客の際に乱雑な印象を与えてしまう。また、共有スペース故に整理整頓の責任所在がない。	職員、利用者様と共に共有スペースの整理整頓を心がける。	日中勤務者が随時目を配り、整理、美化に配慮する。利用者様が落ち着いて過ごせるような環境を把握し実践する。	3ヶ月
4	10	ホームの理念、サービス内容の詳細がご家族に理解されていないことがある。その為、認知症対応のGH機能以上の要望が出され、対応に苦慮してしまう。	家族と共に介護保険制度、認知症、GHの機能について見識を深めていく。	家族会の中に、勉強会も含めて開催する。家族の要望やニーズに対して現状のGH機能を理解してもらいながら両方で協力し合えることが出来るか調整する。	継続
5	4	地域との協力、連携は取れつつあるが、今以上に地域に対して福祉の視点からメッセージを発信することが必要。	気兼ねない近所付き合いを目指す。	地域行事に積極的な参加。地域の課題や方向性を共に考えて協力できる具体案を地域の方と共に導き出す。そのような会合に参加、協力。	継続

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。